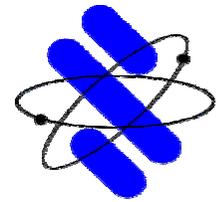


# 平成19年3月期業績レビュー と 平成20年3月期の見通し

平成19年5月28日

株式会社 昭和システムエンジニアリング

# 目 次

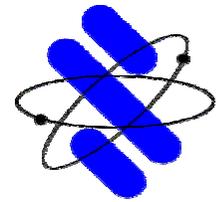


## 平成19年3月期業績レビュー

1. 業績概要	1
2. 業績の推移	2
3. 事業別業績推移(ソフトウェア開発事業)	3
4. 事業別業績推移(入力データ作成事業)	4
5. 事業別業績推移(受託計算事業)	5
6. 貸借対照表	6
7. キャッシュフローの推移	7
8. 経営指標の推移	8

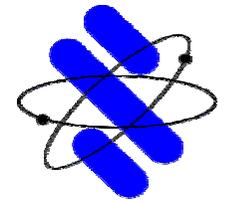
## 平成20年3月期の見通し

9. 市場の動向と当社の対応	9
10. 業績見通し	10



---

# 平成19年3月期業績レビュー



# 1. 業績概要

## 売上高

4,432百万円  
(前期比2.5%増)

## 営業利益

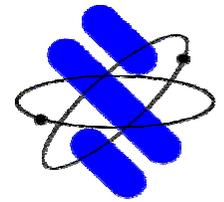
205百万円  
(前期比0.8%増)

## 当期純利益

23百万円  
(前期比 77.2%)

- 売上高は、技術者不足が厳しさを増す中、パートナーとの連携を強化し、増収を確保しました。
- 営業利益は一過性による一般管理費増がありましたが、僅かながら増収を確保できました。
- 当期純利益は、特別損失に役員退職功労金を計上、さらに、税効果会計に関する実務指針の改正に基づき繰延税金資産の一部を取り崩したため、前期比77.2%減となりました。

## 2. 業績の推移



業績推移

単位 = 百万円



平成19年3月期は増収となりました。新卒採用コスト及び創立40周年記念事業等の経費が増加しましたが売上総利益の増加により、営業利益は僅かながら増収を確保できました。

### 【結果】

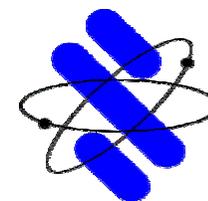
#### 売上高

4,432百万円(前期比2.5%増)

#### 営業利益

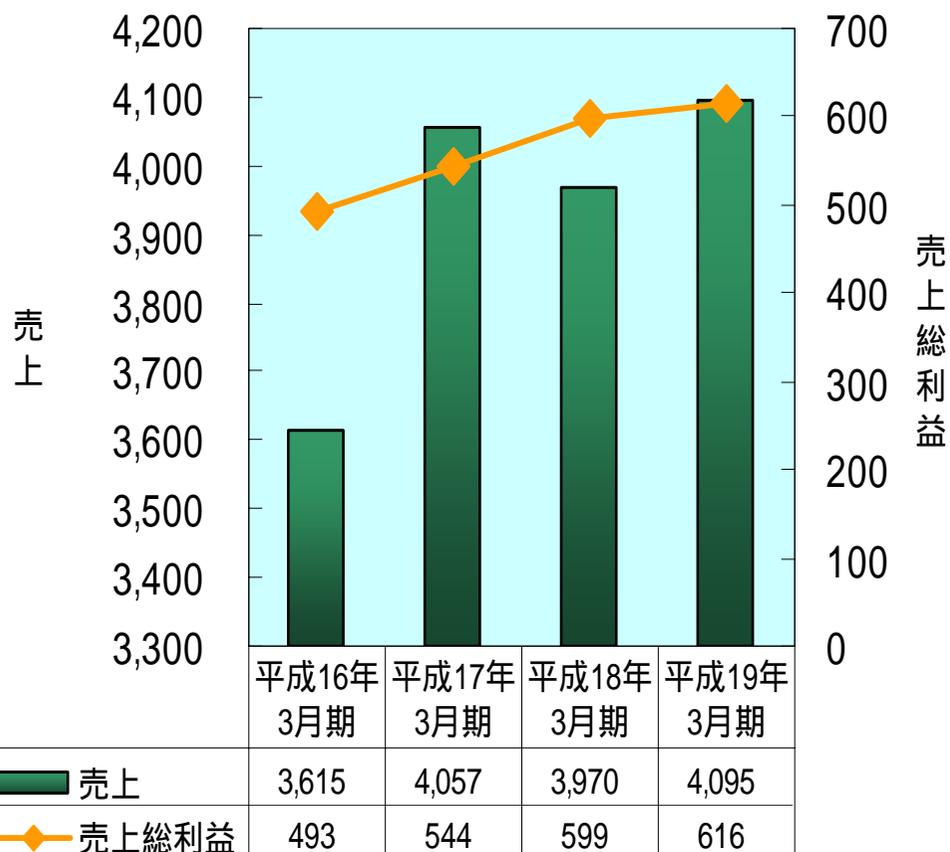
205百万円(前期比0.8%増)

# 3. 事業別業績推移 (ソフトウェア開発事業)



ソフトウェア開発事業業績推移

単位 = 百万円



証券、金融、流通分野から大規模案件および再構築案件等の受注、また官公庁分野ではポータルサイト構築等の受注により、増収、増益となりました。

**【結果】**

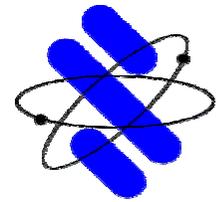
**売上高**

4,095百万円 (前期比3.2%増)

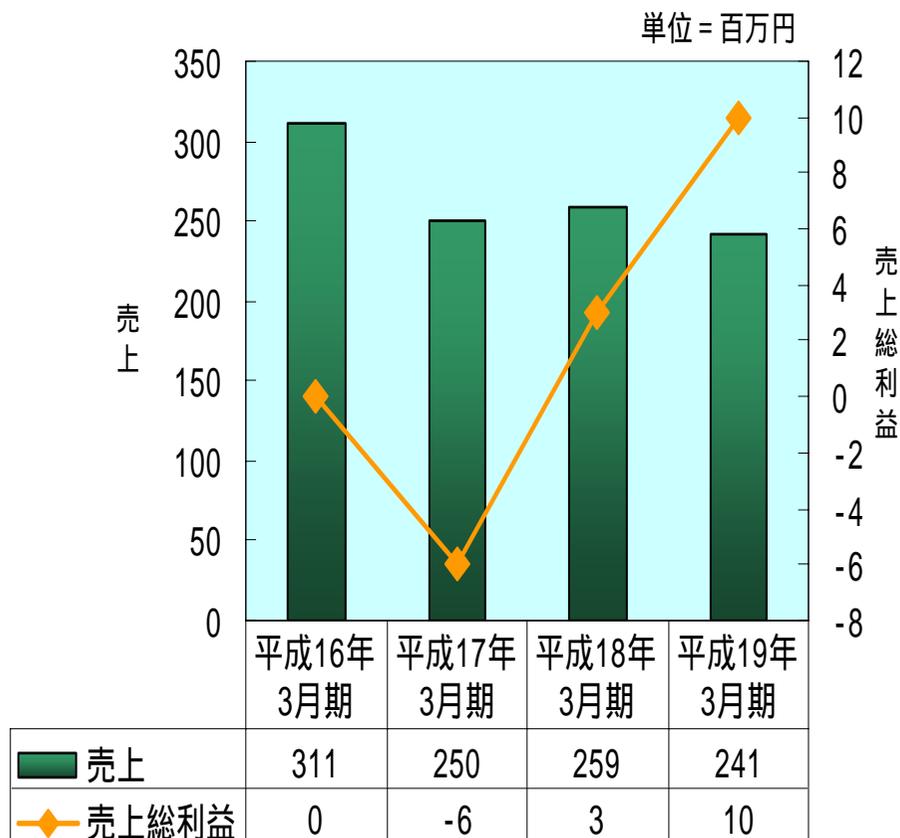
**売上総利益**

616百万円 (前期比2.9%増)

## 4. 事業別業績推移(入力データ作成事業)



入力データ作成事業業績推移



マーケット全体の単価下落が続く厳しい環境下、売上は前期比6.8%減となりましたが、原価削減効果で増益となりました。

### 【結果】

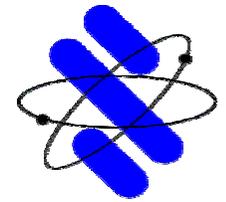
#### 売上高

241百万円(前期比6.8%減)

#### 売上総利益

10百万円(前期比7百万円増)

# 5. 事業別業績推移 (受託計算事業)



受託計算事業業績推移

単位 = 百万円



売上は微増に留まりましたが、Web  
サイト構築及び運用までの一括受注  
効果で売上総利益は10百万円を確  
保することができました。

【結果】

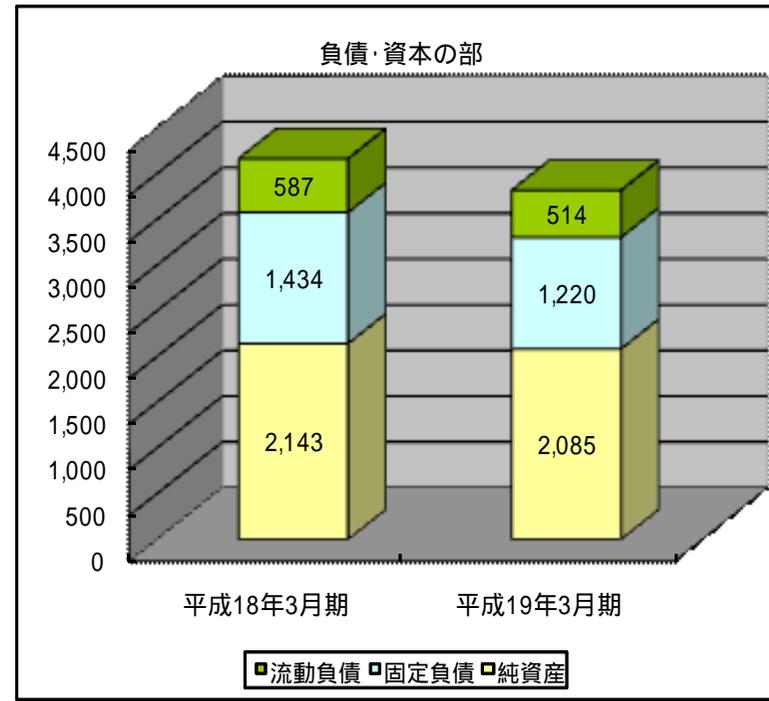
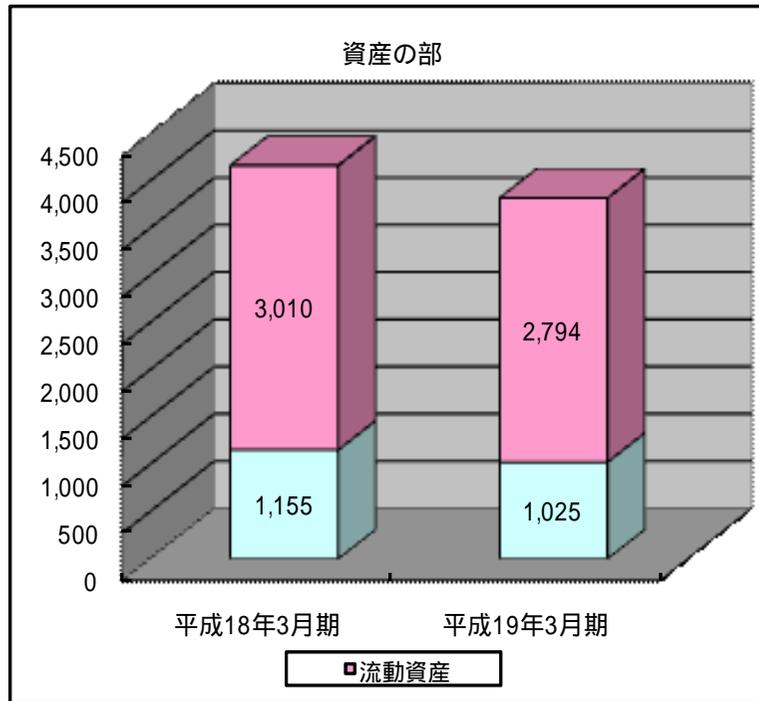
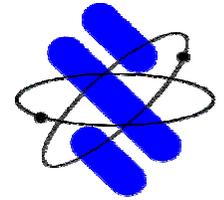
売上高

95百万円 (前期比0.1%増)

売上総利益

10百万円 (前期比8百万円増)

# 6. 貸借対照表

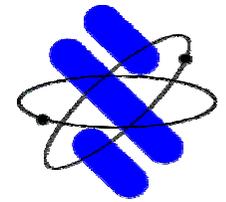


	平成18年3月期	平成19年3月期
流動資産	3,010	2,794
固定資産	1,155	1,025
資産合計	4,165	3,819

	平成18年3月期	平成19年3月期
流動負債	587	514
固定負債	1,434	1,220
純資産	2,143	2,085

流動比率が500%以上の安全性

常に自己資本比率50%以上を維持する健全経営

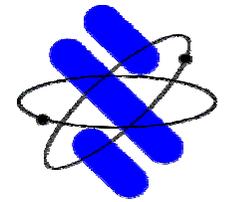


## 7. キャッシュフローの推移

単位 = 百万円

	平成17年3月期	平成18年3月期	平成19年3月期
営業活動によるキャッシュフロー	394	29	174
投資活動によるキャッシュフロー	12	122	610
財務活動によるキャッシュフロー	48	49	62
現金及び現金同等物の増減額	359	102	848
現金及び現金同等物の期末残高	1,948	2,051	1,202

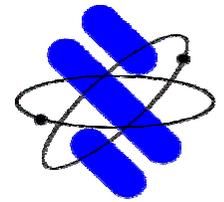
定期預金への預け入れによる減少



## 8 . 経営指標の推移

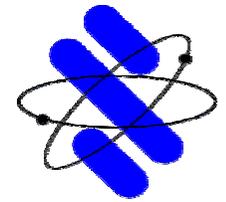
		平成17年3月期	平成18年3月期	平成19年3月期	
収益力	ROE (自己資本利益率)	1.6%	5.0%	1.1%	↘
	売上高経常利益率	2.8%	4.7%	4.6%	→
安全性	自己資本比率	51.6%	51.5%	54.6%	→
	流動比率	522.9%	512.1%	543.5%	→
	1株当り株主資本(円、銭)	429.80	445.88	433.75	→

安定した収益及び安全な財務状態



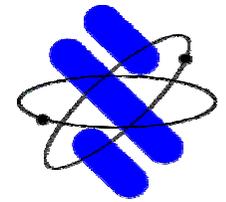
---

# 平成20年3月期の見通し



## 9 . 市場の動向と当社の対応

市場の動向	当社の対応
<p>証券、金融市場 株券電子化対応は、証券業界から他の金融機関に波及。 流通、小売市場 大手を中心に、基幹システム、物流システムの再構築等が顕在化</p>	<ol style="list-style-type: none"><li>1 . 先行した証券業界の株券電子化案件から、信託、都銀等の同案件に、経験済み技術者を適宜シフトし、需要に対応していく。</li><li>2 . 流通、小売業界の業務経験者によるチーム編成で、優位性を訴え、合わせて生産性の向上を図り、コスト重視のこれら業界内でも競争力を維持しつつ対応していく。</li></ol>
<p>慢性的な技術者不足  技術者の確保はさらに厳しさが増すものと想定されます。</p>	<ol style="list-style-type: none"><li>1 . 採用活動の強化 採用センターを新設し、専任担当者により活動を強化</li><li>2 . パートナーとの協業体制強化 パートナー推進室を新設し、既存パートナーとの連携強化する一方、新規パートナー開拓を図りグループ全体での開発力を増強</li><li>3 . オフショア開発の活用</li></ol>
<p>QCDに対する厳しい要求  品質、コスト、納期に対する要求はさらに厳しさを増す傾向にあります。</p>	<ol style="list-style-type: none"><li>1 . プロジェクトマネジメントレビューの実施 当社独自のレビューを定期的を実施することにより、プロジェクト毎のQCDを向上すると共に、開発事故を未然に回避</li><li>2 . オフショア開発 オフショア対象国の社員採用や、オフショア発注先企業の技術者を当社に一定期間常駐させること等によりブリッジSEを自ら育成し、オフショア開発のリスクを未然に回避し有効に活用</li></ol>



## 10. 業績見通し

単位 = 百万円

	平成19年3月期	平成20年3月期		
	実績	見通し	増減	増減率
売上高	4,432	4,600	168	3.8%
経常利益	205	230	25	12.1%
当期純利益	23	110	87	358.8%

平成20年3月期は増収増益を予定